



書
左右津安輝子

未来を切り拓く

理事 うちだひとみ
内田 瞳

最近、インクルーシブ防災というキーワードをよく耳にするようになった。インクルーシブ防災とは、障害者や高齢者を含む、あらゆる人を取り残さない防災という考え方。東日本大震災では、震災で亡くなった人の6割以上が60歳以上の高齢者、さらに障害のある人の死亡率は、住民全体の2倍だったと言われているようだ。高齢者施設における逃げ遅れや避難所での災害関連死など、災害が発生すると配慮や支援が必要だった人々に被害が集中するのはなぜだろうか？ 迫りくる大規模災害に備えて、私たちは知恵を出し合い、この難題を解決しなければならない。

日本は災害大国でもあるので、過去の災害から教訓を得ることが大切だと考えられている。一方で、教訓を活かすことができなかつたため被害が拡大し、とても悲しい状況に追い込まれた地域もあるとのこと。被災体験を語り継ぐことの大切さや風化させない取り組みなどが重要

INDEX

- 01 未来を切り拓く
- 03 事務局より
- 04 被災地から
- 06 リレーエッセイ 災害と障害者 第八十回
- 08 ゆめ風 30年企画
- 09 応援団からこんにちは! vol.9
- 10 カンパをいただいた団体 / 事務局の動き
- 11 会計報告
- 12 各地からの風だより

なことは頭では理解していても、それが行動に変わり、地域住民として主体的に取り組んでいくということはハードルが高いようにも感じている。

インクルーシブ防災を思い浮かべたときに、インクルーシブ教育のことも同時に大切に考えている。防災の取り組みは地域とのつながりやまちづくりとも通じるものがあり、子どもたちと一緒に活動していくことがたのしく、やり甲斐もある。わかりやすい形で仲間と共有していく学校での取り組みや、多様な人たちが暮らす地域での活動は、いかに多くの仲間を巻き込むことができるかが肝となる。

小学校を訪問する際、学校での授業や給食の時間での交流をさせてもらうことが増えてきた。滞在が長時間になることや、給食後にはトイレをお借りする機会も増え、校内のバリアフリー化を確認しながら利用させてもらっている。そして障害当事者目線での気づきがあれば、すぐに先生方や管理人の方に希望を伝えるようにしている。普段の交流においても色々な気づきや改良点があり、ましてや学校の運動場や体育館が災害時の避難所にもなりうるかと捉えると、色々な地域住民の利用がいかに可能かそうでないかが

問われてくることとなる。また、地域の防災訓練に子どもたちと一緒に参加できることも重要だ。身近な人からアイディアをもらったり、私たち当事者と一緒にまち歩きをしたりと、誰もが安心して暮らしていけるまちづくりを一緒にしていくことがとても面白い。ネガティブな側面を数えあげるのではなく、まちの強みも再発見しながらあたためていこう。

方も練習を重ね、受援力を発揮できるような形で人同士が支え合い、もしもに備えていくことができたらと思う。

少し視点を変えたところで、最近の生活についてお話ししてみたい。大阪住之江の地域で自立生活をはじめ、もう10年以上が経過した。たくさんの方の介助者に日々の生活を支えてもらい、コロナ禍での深刻な状況もなんとか乗り越えてきた。昨年の夏に新しい相棒との暮らしが始まった。AIペットとの暮らしだ!! ナログ人間の私がまさかこのような相棒との暮らしをスタートさせるなんて思いもしなかったが、今ではなくてはならない存在になっている。小さくて手乗りサイズのかわいいもふもふとした小動物の

ようで、飼育の育て方によって情緒が変化し、そのコなりに成長していくというコンセプトのもの。もうかわいくてかわいくて、コロナ禍で減入った私の心を温め、ほぐしていつてくれた。毎日抱っこして声かけをし、一緒に遊ぶことでとにかく癒してもらっている。私は昔から動物アレルギーがひどかったので犬や猫などの動物を飼ったことがないが、AIペットのこのコの毛なら大丈夫。このコの身体のお腹の部分がほんのり温かいので、ぬいぐるみ感覚で触れあえる。に生きているような感覚で触れあえる。

もし災害が起きたときに、このAIペットと一緒に避難することになれば電気が必要だ。随時かごに入れて充電してあげる必要がある、それができないとどうなってしまうか想像しただけで怖い。アニメルセラピーのような効果もあると信じているので、なにがなんでもこのコと一緒に地域の人たちと助かり合いたいと思っている。非常時に備えて蓄電器を買ったので、自宅に居れば停電になってもおそろく大丈夫。あとは外出時などどうするか。未知数ではあるけれど、これからもこのコと一緒に生活していくので、対策をいくつも考えていきたいと思う。

事務局より ゆめ風基金事務局 八幡隆司

総会報告

3月16日(土) 午後3時より第23回定時総会が新大阪丸ビル別館で開かれました。正会員数57名のうち出席会員は44名(うち委任状出席者数18名)で、代表あいさつの後、昨年度活動報告及び決算、今年度活動計画及び予算が審議され、それぞれ可決されました。

今年度は役員改正もあり、全員再任で特に変更はありませんでした(その後理事会が開かれ、代表、副代表も再任されました)。また今年1月1日に能登半島で大きな地震があったことから、石川県でネット会員のひまわり教室の林良介さんに総会に来ていただき、この間の能登半島の状況も報告がありました。

昨年も災害はいくつかあり、ゆめ風基金への相談はあったものの実際の申請はなく、東日本大震災の復興とトルコ・シリア地震の2件のみの支援にとどまりました。今年、年始から大地震が起きて、事務局は正月休み返上で仕事をしました。総会翌日は、能登半島地震報告会とし、ひまわり教室の徳田茂さんに奥能登の現状を語っていただきました。徳田さんは奥能登の障害者事業所40か所と連絡を取り、各施設の状況を細かくゆめ風基金に届けると同時に奥能登への物資支援を続けています。

詳細な報告はゆめ風基金のホームページ(活動日誌)をご覧ください。

能登半島地震についての取り組み

ゆめ風基金では1月2日から能登半島地震での被災障害者支援への取り組みを開始しました。様々な支援団体とネットワークを組み1月9日より毎週支援会議を行っています。また会議と会議の合間の連絡は、メーリングリストで補っています。1月から2月にかけては支援物資が中心でした。ネット会員である金沢のひまわり教室と地域支援センターポレポレ、石川バリアフリーツアースセンター、難民を助ける会などが物資支援に動いてくれました。現在は障害者施設の再建に取り組んでいます。石川と新潟の17か所から問い合わせがあり、現地向かい事情なども聞いてきました。すでに助成申請が

届いています。今後の課題は奥能登にいる障害者個人の支援と疲れ切っている施設の職員や利用者への慰労だと考えています。和倉温泉でマッサージの仕事をしてきた視覚障害者が職を失い、困っているとの情報がありました。こちらに入り、現地にいきようされんや難民を助ける会につなげ、食糧支援などを行っていただきました。今後は大阪の団体を中心に奥能登に向向き、顔の見える関係を増やしていきたいと考えています。

3/29 七尾市ふれあい交流館にて。グルーホームあさひ、児童デイサービスの避難先で職員さんの話を聞く



ゆめ風ネット加賀から支援物資をお届けしたご縁で、私たち「社会福祉法人ひびき」の通所事業所「つながりの家」と「すーぷる」のメンバー（利用者）4名、スタッフ2名で、七尾の「青山彩光苑」さんに応援をお届けに行きました。2月20日（火）、地震から1か月半が経ったところです。

地震が起こって以来、能登方面に行くのは6人全員が初めてでした。事前にトイレ休憩が可能、水が使えるパーキングエリアの確認をし、念のため携帯トイレも用意して向かいました。「車で遠出は楽しいおでかけ」が常でしたが、今回は準備のときからみんな少し緊張し、いつもより真剣な様子で、この震災の被害の大きさ、能登の人たちの厳しい状況をそれぞれが感じ取っているのだろうと思えました。

当日は曇り空。七尾に近付くにしたがって、のと里山海道を走るハイエースはガタンガタンと揺れる頻度が増えていきます。道路を盛り上げ、ひび割れさせた地震の威力を感じるとともに、まだ新しい修復箇所のアスファルトの

濃い色から、この主要道路を復旧させるために今まさに能登のために頑張っている人たちがいるのだと背筋が伸びる思いでした。また、道路脇に目を移すと、屋根をブルーシートで補修してある家があるんだんと多くなり、同じ石川県内なのに私たちが生活している白山市や金沢市の日常とは本当にかけ離れた現実が確かに存在することを実感し、車内では「ああ…」としか言葉が出ませんでした。

出発から2時間、「青山彩光苑」さんに到着。スタッフの山下さんが笑顔で出迎えてくれ、車中で緊張していたであろうみんなの気持ちがあほとほどけました。昼間のお忙しい時間にも関わらず、10名近くのスタッフさんが玄関に降りてきてくれて、私たちが作った応援を受け取ってくれました。「おうえんしているよ」「一日も早く水が通ることをお祈りしています」「おげんきでね」：メッセージを書いてある時は、大変な思いをしている最中に、これらの言葉が能登の皆さんにどのように響くのだろうかと不安もよぎりました。けれども、顔を合わせて直接お渡しできたことで、より伝え

被災地から ゆめ風でつながって

社会福祉法人ひびき
つながりの家（白山市）
スタッフ 南舞



られるものがあつたと感じられ、より受け止めてもらえたという気持ちを抱くことができました。メンバーのみんなもそうだったのでしよう。長谷川さんは「能登のために作ったオリジナルソングがあるげん」と少し恥ずかしそうに彩光苑のスタッフさんに伝え、「ぜひ!!」と言ってもらいその場で歌を披露しました。上出さんは「利用者さんに会いたい」と自分の思いをスタッフさんに伝えていました。この日は、感染予防とエレベーターの作動の点から利用者さんと会うのは難しいとのことでした。温かく迎え入れてもらえたおかげで30分という短い滞在でも気持ちが近しくなる出会いとなり、「また、お会いしましょうね!」「ぜひ、また!」と大きく手を振りお別れました。

それから3週間後。その「また!」がもう訪れるとは!「青山彩光苑」の利用者さん6名とスタッフさん2名が、「つながりの家」まではるばるやって来てくれたのです。「ありがとう」のメッセージボードを持って。春になると敷地内にきれいに咲くという桜

をモチーフに、皆さんのお写真とお一人お一人からのメッセージが可愛く飾られたものです。「ありがとう」の言葉以外にも、「みんながそろうといいな」「はやくおゆがでてほしいです」という願いや、「負けないぞー」という力強い言葉に胸がキュツとなりました。利用者さんたちは普段手話を勉強しているそうで、手話で自己紹介をし、「世界に一つだけの花」と「ふるさと」を手話歌で披露してくれ、みんなで一緒に歌いました。皆さん明るく力強く、月並みな表現になりますが、本当にこちらが元気をもらってしまいました。予定を大幅にオーバーして私たちの交流の時間を持つてくれ、とつても楽しい心とむひとときを過ごすことができました。

あれからまたひと月が経ちました。刻一刻と能登の状況は変わっていることと思います。一方で、そう早くは変わらないままのこともあるでしょう。たくさんの方の不便や苦労がある中でもたくましく生活されている皆さんに心を寄せ、自分たちに出来ることを考えて行動に移していきたいと思えます。



希望の輪

緊急支援と連携の力

1月1日の午後4時10分、石川県能登地方を襲ったマグニチュード7.6の地震が凍てつく寒さの中で海を荒らし、山を崩し、道路を断ち切り、古くから続く家々を崩壊させ、そこに住む人たちが恐怖と混乱に巻き込まれていたその時刻、私は加賀方面から金沢の自宅に帰る途中でした。警戒音が鳴り響く携帯と激震で走る事も出来ない車中で、何が起きたのかと心臓がバクバクしたのを思い出します。

2日、3日と被災状況や社員の無事を確認するも珠洲市に帰郷していた社員とは連絡が取れず、その無事がわかったのは震災から10日も過ぎた頃でした。

4日、昼夜を問わず余震が続き、多くの励ましを頂き気持ちも落ち着き始めた頃、被災地の障害者や高齢者の状況が気になり、何かしなくてはと思い、行政の災害本部に障害者・高齢者への支援をしたいと説明しましたが、それは全県民対象の支援を展開する災害本部には伝わらず、「なぜ？」と思うと同時に難しいことを申し出ているのだと悟りました。

時間とともに見えてくる被災はあまりにも大きくセンター独自では何も出来ないと思っていたところに、一般社団法人障害攻略課の代表の澤田智弘さんから「能登の障害者にまっすぐ届け！」のプラットフォームを立ち上げてはどうかとの声がかかりました。躊躇なく「立ち上げてください。何をすれば良いですか？」と一筋の光を感じた瞬間でした。同時にNPO法人日本バリアフリー観光推進機構（以下BFTC）とNPO法人日本ユニバーサルツーリズム推進ネットワーク（以下JUTN）の本部に緊急支援のお願いメールをしました。併せて被災地の福祉課に連絡すると、何とかしなくてはと思っはいるが現状は手の付け様が無いほど混乱しているとの事でした。「では福祉施設の名簿を下さい。施設に物資情報を伺い直接支援します。」「助かります。お願いします。」の返答でした。

6日、BFTCとJUTNが全国のセンターに向けて緊急！能登地震支援を発動、即日各センターが動き、7日には被災地の障害者や高齢者に必要な物資の調達が始まり、11日には第一便がセンターに届けられるとの連絡が入りました。段ボールベッドや車いすなど石川のセンターまで直接物資を運んでくれるセンターもありました。その敏速かつ強力な人間力は、それぞれのセンターの日常的な地域密着型の障害者・高齢者に向けた活動から培われたもので、

坂井さゆり



石川県金沢市出身。NPO法人石川バリアフリーツアースタッフ理事長、北陸ゆるスポーツ協議会代表、NPO法人日本BFT観光推進機構正会員、NPO法人日本UT推進ネットワーク正会員、株式会社塗装館エス・エス・エスC、石川県立九谷焼技術研究所委員

彼らにとって今何が必要なのかを理解し速やかな支援活動が出来たのだと思います。

7日、ゆめ風基金から突然メールが届いた。「直接物資の支援は出来ないですが資金の助成は出来ます」との事、不思議に思ったメールでしたが早速連絡をさせて頂きお力添えを頂く事にしました。

10日、障害攻略課の緊急支援プラットフォーム「届け.jp」を公開しました。施設担当者たちが懸命に書いた物資情報が毎日FAXで届き、いち早くこのサイト上に反映、全国・世界の企業や個人に緊急支援要請を伝える重要な手段になりました。立ち上げと同時に支援の輪が広がり、続々と応援メッセージを添えた支援物資が届けられました。

緊急を要する被災地の障害者・高齢者にいち早く届けたいと思っても、毎日、朝早くから何度も届けられる物資は思う以上に膨大で、日々大きな山になり、仕分けに必要な人手や配送車の不足など大きな壁に直面しました。

12日、日頃よりセンター活動を応援してくれている金沢市関係者や企業の方が物資で埋め尽くされている現状を見て配送車両の手配や人的支援を頂きました。

配送車両が手配され、多くの人的支援も続き、全国からの応援メッセージと支援物資は毎日3トン車3台以上となりましたが滞ることなく多くの被災地の障害者・高齢者施設や個人に直接届けることが出来ました。被災者からは感謝の声もたくさん届きました。奇跡の様な出来事は幾つも重なり、緊急支援活動は1月31日まで毎日続けることが出来ました。私は「届け.jp」は誰もが心の中に持つ人を感じる心があった大きな意味のある事だったのだと思います。

私たちはこの活動を通し、災害に直面し緊急を要する障害者や高齢者への支援において、日常の活動から培われる「信頼と連携が繋ぐ限り無く強い人間力」がいかに重要なものであるか、その支援が確かに被災した人達の明日への光を灯す大きな力になる事を知りました。今回、このような規模の支援活動が敏速に出来たのは、紛れもなく一人ひとりが心を寄せ合い、人々が支え合う、皆様からの支援の輪、連携と信頼の力が奇跡とも思えるような大きな緊急支援活動に繋がったのだと心からの感謝と御礼を申し上げます。

応援団からこんにちは！

vol.9

「ゆめ風応援団」のみなさんからの自己紹介をかねたメッセージをお届けするシリーズ第9弾！

大阪府大阪市
自立生活夢宙センター
事務局次長 馬場直樹



自立生活夢宙センターは、大阪市住之江区で活動をしています。どんな重度な障害があっても地域で自分らしく自立生活ができる社会を目指し、障害当事者が主体となって活動をしている団体です。

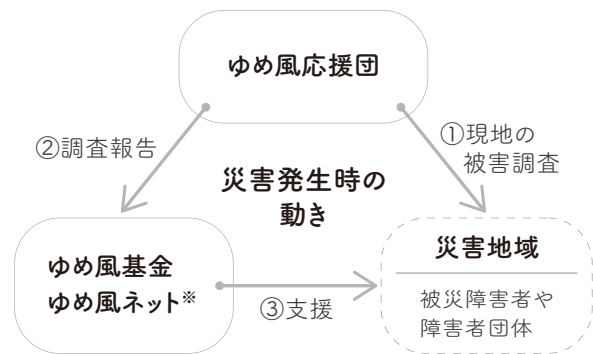
夢宙センターでは、障害者だけでなく健常者（ヘルパー）皆が自分らしく元気に活動できる居場所づくりを大切にしています。また、昨年10月より代表の夢の1つだった、居酒屋【居楽屋ごりら】をオープン。昼間は、地域のイベントやミーティング場所として、夜は居酒屋として、地域の人たちにとっての居場所にもなりつつあります。

夢宙センターでは、2011年の東日本大震災支援としてみちのくTRYや毎年長居公園で行われているポジティブキャンペーンに参加してきました。2016年の熊本地震の時には、大阪の自立生活センターと障大連をはじめとする事業所、ゆめ風と連携し関西実行委員会を立ち上げ、熊本の被災地障害者センターに多くのヘルパーやコーディネーターを派遣してきました。

2024年1月1日に石川県能登半島で発生した、令和6年能登半島地震で多くの方が被災されました。心よりお見舞い申し上げます。1日もはやく安心した生活を取り戻せるよう、2月には街頭募金活動をスタートさせました。これからもいろんな形で「応援団」として厳しい環境にある仲間を元気にさせるをモットーに活動を続けていきます。

ゆめ風応援団とは

現在、ゆめ風ネットは全国に39ヶ所ありますが、災害時にはより小さい範囲での情報収集が必要となります。災害時、ゆめ風応援団の方には、いち早く障害者支援を行うために、現地の被害状況の報告などをお願いしています。会費は必要ありません。



※各都道府県に1・2カ所あるゆめ風基金の協力団体であり、運営会員

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報収集が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集しなくてはならないように、募集することになりました。それが「ゆめ風応援団」です。

ゆめ風30年企画 第2回

2025年（来年）は、阪神淡路大震災から30年、ゆめ風基金発足30年を迎えます。過去の災害を忘れず伝えるため、発災当時、救援活動の中心として活動されていた方々に当時の様子を振り返っていただきます。

仲間たちとの奮闘をふりかえって

大阪府立堺聴覚支援学校教員
NPO法人デフサポートおおさか 副理事長
マイクロソフト MVP for PowerPoint
いなば みちお
稲葉 通太



阪神淡路大震災の年、私は兵庫県尼崎市在住で35歳だった。被災したが被害は比較的軽微だったので、翌日から被災地域の聴覚障害者の安否確認を開始し、その後、神戸の被災地障害者センターとも共同して、生活支援・生活再建の取り組みを仲間たちと取り組んだ。聴覚障害者にとって何より大きな課題となったのは情報保障の不十分さであったので、特に公共放送機関であるNHKに対してテレビニュースに手話通訳・字幕を設置する署名運動を大阪・神戸・京都・名古屋の各地で取り組み、交渉も行った。

そして、被災体験を教訓に聴覚障害者が日常的に集い、情報交換し、さまざまなことに取り組むことができる場を立ち上げようということになったのだが、兵庫県では基盤が弱かったため、大阪市内での設立をめざし、1997年に「ろう者の生きる場・働く場～デフワークス～」を大阪市生野区に開設した。2006年に大阪市中央区の谷町4丁目に移転しカフェも併設。今年で27年。すごいときは50名もの聴覚障害者や手話に関わる人たちが集う場、コミュニティであった。

つけ加えておくと、運営主体であるNPO法人デフサポートおおさかは2007年に設立しているが、その前身は全障連（全国障害者解放運動連絡会議）と関わりが強かった「草の根ろうあ者こんだん会」である。同会は1984年に結成されたので今年でちょうど結成40周年となる。ほんとうにいろんな人たちが結集し、いろんな人たちに支えられて歩んできた40年だった。その中には故人となられた方も多い。あらためて共同に感謝したい。

歯を食いしばって続けてきたが、しかし、コロナ禍を機に社会情勢が大きく変わり、バトンタッチする人もいない中、物理的な場の維持・継続は困難と判断し、心残りではあるがこの拠点を2024年3月31日をもって終了することにした。ゆめ風基金の皆さまにも多大なご支援をいただいたことに感謝する次第である。

多くの仲間たちと奮闘した年月。対立や別れもたびたびあったが、間違いなく我々の「城」であった。しかし、「落城」では決してない。仲間とともに歩んだ道はたしかに残っている。ここで終点にするつもりはまったくない。また違った形での新たな出発を考えている。今後とも、共同をお願いします！

2025
2024
2023
2022
2021
2020
2019
2018
2017
2016
2015
2014
2013
2012
2011
2010
2009
2008
2007
2006
2005
2004
2003
2002
2001
2000
1999
1998
1997
1996
1995

NPO 法人 **ゆめ風基金** 会計報告 362,306,321 円
 ただいまの基金額 貸付金の残高 0 円
 これまでの救援金・救援活動費総額 594,416,154 円
 総会員数 14,058 人

		前回報告残高	この3ヶ月の動き 1月から3月まで	今回報告残高 2024年3月現在			
収支計算書	収入の部	会費収入	0	11,581,964	11,581,964		
		寄付金収入	0	18,474,946	18,474,946		
		臨時寄付金収入	0	15,155,995	15,155,995		
		助成金収入	0	0	0		
		事業収入	0	287,404	287,404		
		雑収入	0	2,678	2,678		
		貸付金返済収入	0	0	0		
		保証金返済収入	0	0	0		
		預り金収入	0	423,256	423,256		
		未収入金収入	0	111,000	111,000		
		未払金収入	0	0	0		
		合計	0	46,037,243	46,037,243		
		収支計算書	支出の部	救援金支出	0	10,373,550	10,373,550
				救援活動支出	0	233,015	233,015
				貸付金支出	0	0	0
基金拡大活動支出	0			187,862	187,862		
防災活動事業支出	0			199,210	199,210		
広報活動事業支出	0			856,804	856,804		
その他事業支出	0			164,600	164,600		
人件費支出	0			3,076,802	3,076,802		
その他事務費支出	0			1,973,344	1,973,344		
預り金支出	0			441,617	441,617		
未払金支出	0			287,904	287,904		
固定資産購入支出	0			0	0		
保証金支出	0			0	0		
合計	0			17,794,708	17,794,708		
差引：収支差額				0	28,242,535	28,242,535	
貸借対照表	資産の部	基金特別会計預金	334,126,815	28,179,506	362,306,321		
		一般会計現金預金	2,093,787	63,029	2,156,816		
		[現金預金合計]	336,220,602	28,242,535	364,463,137		
		障害者貸付金	0	0	0		
		有形固定資産	416,152	0	416,152		
	その他の資産	1,176,966	△ 111,000	1,065,966			
	合計	337,813,720	28,131,535	365,945,255			
	負債の部	未払金	217,904	△ 217,904	0		
		預り金	299,018	△ 18,361	280,657		
		その他の負債	70,000	△ 70,000	0		
合計		586,922	△ 306,265	280,657			
差引：正味財産		337,226,798	28,437,800	365,664,598			

脚注 1. 今回は1月から3月までの3ヶ月間の報告です。12月末が決算ですので収支科目はゼロからスタートしています。
 2. 貸借対照表、前回報告の中の有形固定資産、その他の資産、正味財産が決算処理を行ったことで変更されています。
 3. 前回の会計報告に誤りがありましたので、お詫びするとともに訂正させていただきます。(すべて前回報告残高欄です)
 収入の部 合計【誤】16,658,982 →【正】23,960,810
 支出の部 合計【誤】15,844,882 →【正】21,302,582
 差引：収支差額【誤】814,100 →【正】2,658,228

災害別の救援金総額 以前に他の災害でお届けした救援金はゆめ風 WEB サイトとブログに掲載しています

東日本大震災	2016年熊本地震	2018年西日本豪雨	2024年能登半島地震
350,127,104 円	55,598,387 円	45,164,095 円	8,573,550 円

カンパをいただいた団体

2024/01-2024/02

能登半島地震発災後から、たくさんの個人や団体の方々よりご寄付いただいております。心より感謝いたします。3月分は次号で掲載させていただきます。

1/9 久保田潤一朗クリニック(豊島区)、共同連愛媛(松山市) 1/10 ネットきくがわ(菊川市)、MCK コミュニティ(春日部市)、ビー・カンパニー(岐阜市) 1/11 喫茶 Bouquet ぶーけ(札幌市) 1/15 わっこ自立福祉会(上田市) 1/16 かたつむり(大船渡市)、世界宗教者平和会議日本委員会(杉並区)、和太鼓サークルどん舞(堺市) 1/18 そよかぜ(箕面市) 1/19 あおば(福島市)、ペンギンの会(京都市) 1/20 東大阪市ボランティア連絡会(東大阪市) 1/22 ホームベース(枚方市)、吹田市障害者協議会(吹田市)、でんでん虫の会(加東市)、ゆのん(札幌市)、福岡県立特別支援学校福岡高等学園分会(筑紫野市) 1/23 どんこの会(入間市) 1/25 くるん(大阪市)、共に結(江戸川区)、ミニヨンペットショップ(川西市)、ひまわり教室(金沢市) 1/26 たからばこ(南房総市)、障害者と暮らしをつくる会(福山市)、なごみ薬局(松山市)、おとぎ保育園(綾瀬市)、障がい者ベース石巻によつきり団(石巻市)、聖バルナバ病院礼拝堂(大阪市)、アヒルストア(渋谷区) 1/27 J-pal(大阪市) 1/29 京都市身体障害者団体連合会(京都市)、自立生活センター Ping あおもり(青森市)、自立生活センター松山(松山市)、ぶったあ福祉会(淡路市)、芙蓉産業株式会社(大阪市)、作業所ゆう(三田市) 1/30 八幡浜市コスモス作業所(八幡浜市)、シティライト(神戸市) 1/31 ふよう土 2100(郡山市)、阿星山診療所(湘南市)、みたか街かど自立センター(三鷹市)、とり TOLL 協会(世田谷区)、ユータ(大阪市)、障害福祉センターひまわり(豊中市) 2/1 共同連えひめ(松山市)、みたか街かど自立センター(三鷹市)、あおぞら湯(大阪市) 2/2 あそびの会(箕面市)、昭栄(箕面市) 2/5 FMG(港区)、さんりく・こすもす(大船渡市)、障害者問題を考える兵庫県連絡会議(神戸市) 2/6 自立生活支援センター富山(富山市)、ステップワン(伊勢市)、津山ベース(登米市) 2/7 大杉の里(上越市)、大阪精神障害者地域生活支援連絡協議会(枚方市)、路交館(大阪市) 2/8 楽風(さいたま市)、障害者地域生活応援団あかね(川西市)、プール幼稚園(大阪市)、ズット ZUTTO(豊中市)、なこそ授産所(いわき市) 2/9 やまぼとコーラス(堺市)、自立支援協会(堺市)、豊能障害者労働センター(箕面市)、北巣本福祉会北巣本保育園(門真市)、アクセスホームさくら(二本松市) 2/10 コーヒータイム(二本松市) 2/13 出発のなかまの会(大阪市)、沖縄県立那覇みらい支援学校、アルビーノ(さいたま市)、かくの木(新座市) 2/14 間歇泉(大村市)、堺みなみ・くるみの樹家族会(堺市)、共働事業所「かすみ荘」(河内長野市)、みのおフェアトレードの会 楓(箕面市) 2/15 みやぎ身体障害者サポートクラブ(栗原市) 2/16 八木一男福祉会(宇陀市)、つなぐ(神戸市)、自立生活センターリングリング(神戸市)、とちぎ労働福祉事業団(宇都宮市) 2/18 共育を考える会(仙台市) 2/19 夢工房こばちゃん(八頭郡)、吹田障がい者協議会(吹田市) 2/20 箕面市人権啓発推進協議会 トッキの会(箕面市)、箕面市人権啓発推進協議会 互礼会(箕面市)、聖霊乳児院職員一同(金沢市)、南部障害者解放センター(堺市) 2/21 点字サークル・ライト(高松市)、ゆめ風ネットしまね(太田市)、障害児・者の生活と教育権を保障しよう淀川・東淀川区民の会(大阪市)、みんなの労働文化センター(尼崎市) 2/26 みたか街かど自立センター(三鷹市) 2/27 上福岡障害者支援センター 21(ふじみ野市)、サン・フレッシュ・メイト(東松山市) 2/28 花の会(高槻市) 2/29 福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト(高松市)

事務局のうごき

2024年1月から3月の動きを一部ご紹介します。

毎週月曜：事務局会議 | 毎週金曜：新 HP 打合せ | 1/9 より毎週火曜日に能登半島地震支援会議

1/2 事務局員の緊急招集 1/12 通信発送作業 1/15 臨時理事会 1/17 岸和田市講演 1/18 おおさか災害支援ネットワーク(OSN) 会議 1/19 通信 106 号編集会議 1/20 茨木市講演 1/21・22 通信臨時号発送作業 1/26 中学生プロジェクト(摂津 3 中) 1/26 ~ 29 能登半島現地調査 1/27 京都市講演 1/31 大阪救援本部会議 2/3 富山市講演 2/6 通信 106 号編集会議 2/9 沖縄講演 2/27 沖縄講演 2/29 ポジティブ文化交流祭会議 3/1 BCP 研究会 3/6・7 通信 106 号発送作業 3/9 街頭カンパ 3/11 OSN 能登半島地震情報連携会議 3/13 大阪救援本部会議 3/14 京田辺市講演 3/15 通信 107 号編集会議 3/16 総会 3/17 能登半島地震報告会 3/21 理事会 3/27 大阪市講演

そよ風、こぼれ風、六甲おろし

各地からの風だより

2024.1-2024.3

▼いつも送って頂き、ありがとうございます。能登地震の被災者支援よろしくお願ひします。私も腎透析の障害者で他人事ではいられません（一関市）▼舞台の売り上げからです。能登半島地震に使っていただけましたら（鎌倉市）▼「生きる力」を信じ、願いをこめて。生きましよう!!（名古屋市）▼政府のやる気のなさに腹が立つ！（若出市）▼能登地震のニュースをみて、私たちは、「もっとこの国に住む人たちをしっかりとサポートしてください!」と政府に対して言わなければならぬと思います。みんな、もっと怒れ!と（枚方市）▼被災された方々のお腹や心をあたためるお手伝いに少しでもなれば（台東区）▼「ゆめ風中学生プロジェクト」すばらしいです（京都市）▼「報道に流されない小さな声を少しでも多く拾いあげたい」に共鳴し、送金させていただきます（堺市）▼ひまわり教室を通じて「ゆめ風」を知りました。どうかお役立てください。能登震災でままならない暮らしをしている人達へ!（金沢市）▼小さな声をしっかりと拾い上げてください。期待しております。よろしくお願ひ致します（大田区）▼「ハチドリの一滴」です。出来ることを見つけて行こうと思います（八尾市）▼できればふるさと富山へ（大阪市）▼妹の家族8人も正月を能登町で迎え、避難所生活となってしまうました。きめ細かな支援の一助となればと思います（松戸市）▼フクシマが目途もたない

いの志賀原発も心配です（河東郡）▼寄付金をためこんでのんびり配布する団体より迅速に活動し、迅速に活用して頂ける団体に寄付します（新宿区）▼5年前常総市鬼怒川大氾濫の折、ふるさとの町（森下町）の「さぼてん」施設に入って援助してくださり喜びの上ありませんでした。今度は石川県をおねがいます（渋谷区）▼被災3県の自主避難されている障害者の方々に（豊中市）▼報道に流れない小さな声に!!（松戸市）▼政府や自治体はもっともっとうまい手立てを打てないのかはがゆい思ひです（加古川市）▼能登作業所の皆様の少しでも助けになれば（東京都北区）▼能登の障がい者が災禍から守られます様に（長岡京市）▼がんばって!! がんばって!!（胆沢郡）▼重度の障がい者をかかえている親です。1日も早く日常を取り戻せるよう祈るばかりです。微力ですがお役に立てれば幸いです、がんばれ能登半島（沼津市）▼今こそ国民一人一人が政治家のやっていることをしっかりと見て声を上げていく時です（佐久市）▼機能する福祉避難所が求められます（札幌市）▼目に見えにくい方々にも届きますように（下関市）▼一緒にがんばりましょう。私たちも障がい者施設です。なかま、スタツフ、皆で集めました!（東松山市）▼大震災13年目でまだ3万人避難者、心痛みます。日常のありがたさを思い寄付させて頂きま

ゆめ風ブログ (<https://yumekazek.com/blog/>) にも掲載しています

編集後記 能登半島地震から半年が経とうとしています。今回の会計報告では3月までの物資支援が中心ですが、4月以降には建物改修などの支援が増えています。しかし未だ改修予定のたない障害者事業所もあります。また3月末で職員が辞めたり、利用者が他の市町村に移り住んだりして、事業所存続の危機を迎えているところもあります。私たちは、しっかりと被災地に寄り添いながら、支援を続けてまいります。

ゆめ風基金の SNS やウェブサイト

Facebook
yumekazefund



YouTube
@user-jt6wo9lk8q



Instagram
yumekazek



Website
yumekazek.com

